＜別紙１＞

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

②

よこはま地域福祉研究センター

③ 施設・事業所情報

名称： 屏風ゆめの森保育園			種別：児童分野　認可保育所		
代表者氏名： 園長　桐生暢子			定員（利用人数）：	60	名
所在地：〒235-0023　横浜市磯子区森5－2－28					
TEL：. 045-750-0611			ホームページ：http://www.kanagawa-swc.com/yumenomori/		
【施設・事業所の概要】					
開設年月日　：　平成28年（２０１６年）4月1日					
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人　神奈川県社会福祉事業団					
職員数	常勤職員：	19	名	非常勤職員	8　名
専門職員	園長	1	名	栄養士	1　名
	保育士	22	名	調理員	2　名
	看護師	1	名		
施設・設備の概要	（居室数）	6	室	（設備等）	
				一時保育室・子育て支援ホール・給食室・乳幼児トイレ・事務室・ユーティリティー・更衣室・みんなのトイレ・休憩室等	

③理念・基本方針

【経営理念】「人にやさしい豊かな心」　「地域社会への貢献」　「活力ある経営」
【保育方針】「豊かな実体験を通して心を育む保育」明日への希望を膨らませ、生きる力を身につける保育を実施します。子どもの持つ力を信じ、一人一人を大切にします。
「子育てを共に考え見つめ合う保育」保護者と共に喜びを共感し合える子育て支援を目指します。
「地域に開かれ共に育ちあう保育」人と人との繋がりの拠点とし、地域と協力関係を築きます。

④施設・事業所の特徴的な取組

・豊かな実体験を広げる意味で、幼児クラスでは陶芸・英語・体操・お話し会等、外部講師による活動も取り入れているが、特化型の保育でなく、子ども・保育士のアイディアで主体的に保育を創り出せる環境がある。
・日当たりの良い園庭が自慢で、天気が良ければ午前午後共に戸外遊びが楽しめる。
・親子の時間の充実のため絵本貸し出しを行っている。
・コロナ禍にあっても子ども達の経験値が下がらないよう、また子ども時代を目いっぱい子どもらしく過ごせるよう、皆で保育を工夫している。
・異年齢交流保育、障がい児保育、一時保育、地域子育て支援、に積極的に取組んでいる。
・小規模園と連携し、３歳児クラスで２人受け入れている。

・子ども達が喜怒哀楽を素直に表出し、ありのままの自分で楽しく過ごせるよう、子ども達の気持ちを汲み取りながら保育するため、ゆとりの人員配置をしている。
・駅に近いのでアクセスが良い。　・保護者とは成長の喜びだけでなく、子育ての不安や悩みも共有し一緒に考えられるよう、日頃のコミュニケーションを大切にしている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年5月19日（契約日）　～ 2022年12月13日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2　回（ 2017年度 ）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

【特長】

◆子どもの気持ちに添った丁寧な保育のもと、子どもたちは自分らしさを発揮しています

保育士は、乳児には、応答的に関わり、様々な場面で絶えず声掛けして、情緒の安定をはかり子どもの気持ちを汲み取るよう努めています。幼児クラスは、子どもが発言する機会を作り、みんなそれぞれの意見を聞くことで友だちの考えを知り、協同して一つの物を作り出すなど、話し合いから協調性を育むよう援助しています。保育士は、子どもたちの発想で行事につながる活動をしたり、自分たちで決めて作った段ボールの秘密基地などの空間を楽しむことができるよう援助しています。毎日の積み重ねで基本的な生活習慣が身につけられるよう、子どもの発達に合わせ丁寧に対応しています。朝の支度の図解や服の畳み方のイラストがあり、自発的に行動できるようにしています。また、一日の流れや今週の予定など絵カードを多用して、子どもが見通しを持って行動できるようにしています。更に、要配慮児も、それぞれの特性、個性と捉え、共に育つよう援助するなど、個々の状況に応じた丁寧な関わりをしています。この様に、意識と意欲の高い保育士の援助を受け、子どもたちは自己肯定感を持って、自分らしさを発揮しています。

◆様々な体験をすることで子どもたちが成長するよう、見通しを持った取組をしています

園は、子どもたちが豊かな体験ができるよう努めています。夏のプール・水遊びなどから、出来なかったことができるようになる経験をすることで、秋の育ちに繋がっていく、成長へと見通しを持った取組をしています。夏はどろんこ遊びなど五感を使って遊び、秋には、案山子作りや園庭で育てたサツマイモ掘りを行い、芋のつるを使ったリース作りに取組んでいます。年長児は、バケツで稲を育て、脱穀、すり鉢で籾殻取りをして米にする大変さを学び、焼き芋会では、近隣へ焼き芋を届ける特別な役割を経験します。さらに、３・４・5歳児クラス合同で遠足に行き、縦割りクラス３人１組のグループ活動は、５歳児が中心となってスタンプラリーやリレーなどを協力し合う交流保育を通して憧れやいたわり、優しさを育んでいます。訪問調査時、園庭で幼児は、散歩から戻った乳児に「おかえり！どうして泣いているの？」、転んだ友だちに「大丈夫？」といたわりの声をかけている姿がみられました。発達に応じた育ちの積み重ねが子どもの成長につながるよう援助し、子どもの育ち、発達を促す取組をしています。

◆職員は、共通認識を持って取組んでいます

園長は、子どもも保護者も職員も笑顔で毎日を過ごせるゆとりを持っていて欲しいと

考えていて、職員には「保育を楽しむ、職員が楽しめないと子どもも楽しめない」と伝えています。そのために、ゆとりを持って保育ができる状況を作り、職員間で相談し合える関係をつくるよう努めています。職員はテーマを掲げて保育の質を高める努力をしています。「しなやかな心と体づくり」では、けがをしにくい丈夫な体づくりを心がけ、子どもの転倒によるけがが減りました。また、「保育の見える化」では、ドキュメンテーションの研修を行い、各クラスの「今日の保育」を掲示して、活動内容を伝え、ファイリングして1年の成長が分かるようにしています。さらに「今日の保育」は他のクラスの様子を見ることができ、子どもの将来の成長の見通しにも役立っています。職員は、様々な取組に共通認識を持って取組んでいます。

【今後期待される点】

◆園独自の中長期計画を策定して事業計画に繋げることが期待されます

中長期計画として法人は、第４次総合経営計画を策定していますが、園独自の中長期計画は策定していません。事業計画は、法人の経営方針に基づいて策定しています。園は、職員各自が年度の振り返りを行い、職員で話し合い、意見の集約をして、年度末に職員全体で確認しています。その間、参加できなかった職員は個別に小グループを作り意見を募っています。全ての職員が保育だけでなく、園の運営全体について意見表明する機会をもち、全員で改善策を検討し、次年度の取組むべきことを共有する仕組みがあります。この様な仕組みのもと、園独自の中長期計画を策定し、事業計画に繋げることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回は、5年ぶり2回目の受審でした。前回は開園後まだ2年目でしたが、受審をしたことで「私達って意外とできている」ということが分かり職員の自信に繋がったことを覚えています。あれから5年の歳月が流れ、積み重ねてきたことが評価されるということでは、また違った緊張感もありましたが、ありのままを評価していただき、改善に活かしていけばよいと皆で確認しました。

先ず、自己評価の段階では保育・運営の細部に渡り見直すことで、職員間で自園についてより深く共有する機会となりました。訪問調査では、丁寧なヒアリングの中での気付きも多くありました。結果は、自己評価以上の高評価をいただき、更に職員の自信と自己肯定感に繋がりました。足りない所は改善しつつ、これからも子ども達の笑顔のため保護者の皆様と共にゆめの森の保育を紡いでいきたいと思います。お忙しい中、利用者家族アンケートにご協力いただきました保護者の皆様ありがとうございました。

また、いつも温かく保育園を見守ってくださる近隣地域の皆さまにも心より感謝申し上げます。保育園に関わる全ての皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

⑧第三者評価結果

別紙２のとおり